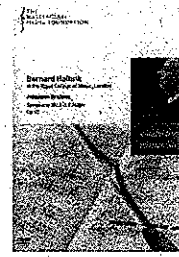


■相場ひろ (フランス文学)

Brahms

ハイティンクが音楽院のオーケストラを振る6人の学生指揮者を指導する風景を収録する。曲目は「純粋にシンフォニックなもの」と、たいへん親密なもの「共存」によって、プロの指揮者にも難曲というブラームスの交響曲第3番で、全楽章を克明に追いかけるために、ハイティンクへのインタヴューも含めて3時間半を超える長尺となっている。指導を受ける学生がまず振った後で、ハイティンクが力の使い方、意思の伝え方を中心に手短な指示を与え、学生がもう一度振り直すという進め方をする中で、楽想の対比のメリハリやテンションの配分、フレーズの動きなどがみるみる改善されていくのには感心する。指揮棒にも技術があり、それが音楽といかに密接に結びついているかを、これほど実感させる光景は少ないに違いない。面白いのは実例を示そうとハイティンクが自ら棒をとったときで、巧みにコントロールされた腕の動きが音楽をガラリと変えてしまう様子には、凄みすら漂う。



「マスタークラス・メディア・ファウンデーション〜ベルナルト・ハイティンク」
〔ブラームス：交響曲第3番〕

ベルナルト・ハイティンク
(指揮指導) ロンドン王立音楽院
〔収録：2007年〕
[Masterclass Media Foundation©MMF011]
DVD

特

RECORD GEIJUTSU
2011. 8

☆ Editor's Choice
(Mr. Hiro Aiba)